



# 浜家連 ニュース8月号

第252号

2021年8月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

## はじめた一人暮らし、ここから夢が実ることを 副理事長 大羽 更明

37歳の我が息子、効かない薬、強い副作用、度重なる入院、育たない生活力、社会からの孤立、頻発する衝動的暴力……。それでも一人暮らしをはじめることができた、とお話しました。

([http://www.hamakaren.jp/publics/download/?file=/files/content\\_type/type019/185/202103021139461226.pdf](http://www.hamakaren.jp/publics/download/?file=/files/content_type/type019/185/202103021139461226.pdf) 浜家連ニュース3月号)。

中学卒業のころ、軽度の知的障害と統合失調症の診断を受けました。それから今まで抗精神病薬を飲み続けています。当時は発達障害についてあまり理解されていないこともあり、薬が効かないから増やすというよくあるパターンの多剤大量投与で眼球上転などの重篤な副作用に苦しんでいました。主治医を変わってからは（主治医はこれまで10人ほど変わりました）、薬も副作用の現れ方も変わりましたが、特効的に効く薬は見つからないまま精神科受診は今でも続いています。今回一人暮らしをはじめられた要因の一つに、受診の拒否や中断がなかったこともあるかもしれません。

今回のような厚みのある支援が受けられたのは何故だったのか、振り返ってみました。一番大きかったのは、いうまでもなく、家族が中途半端に関わるのをやめて、支援者のみなさんを信じ、とにかく一人暮らしを始めてしまったことです。それにより本人は安心できる自分の居場所を確保できたのだと思います。不安や心細さ、不慣れた生活の不便があったでしょうが、それ以上に支援者に依存しながらも邪魔されずに自分で自分の城を守る体験が大きかったのでしょう。不安が学びを上回ったときには衝動的な言動が現れましたが、それを克服するとまた自信が身についたように思われます。それができたのも実は、もっと以前から当事者との密な接触をこころがけて、始業前に自宅に迎えに来て作業所に同行したり、勤務時間外に通院同行や自宅訪問したりす



る区役所ワーカーさんをはじめとした、支援者のみなさんの日頃の積極的な行動があったからでしょう。

複数の支援者による直接の関わり、多職種支援者によるこころの健康の視点からの本人の希望の聞き取り、その結果についてメーリングリストを使った支援者どうしの情報共有は連帯意識を醸し、相談機関の専門的な意見交換は制度の枠や区域を超えて行き来し、通所先作業所での日中生活の様子の報告や次回訪問予定の連絡は隙間なく……。支援者間の密な連携プレーです。

さらに、家族支援です。家族へのきめこまかな気配り連絡や、家族間の不満の傾聴までも無意識にできる支援者の力量も無視できません。今までならフラッシュバックで過去のできごとにとらわれ親を責めるような場面でも、親の口から出る肯定の言葉が対決という問題を回避する契機になると気づかされました。親にも役割があったわけです。

今後もまだまだトラブルは絶えないでしょう。現実にはトラブルがなくなるほど生易しくはないでしょう。でも、確保した居場所が、次は社会参加を学ぶ場、働く場、人への貢献の場にひらけてほしいと願っています。

この事例が例外ではなく、共生社会を目指す横浜市の包括的ケアシステムにつながってほしいと思います。

## 浜家連の動き



- 横浜市及び横浜市会各会派へ要望書の提出、懇談会が行なわれています。それらについて報告が届いています。

### 公明党横浜市議団への令和4年度予算編成に対する要望書提出と懇談会に出席して あげぼの会 岡林 郁子

日時 6月14日(月) 14:00~14:45

場所 横浜市役所 市会棟 委員会室7・8

浜家連は宮川理事長、大羽、稲垣、井汲各副理事長、理事、会員、中居事務局長の11名が出席しました。

公明党は横浜市議団16名と前衆議院議員と秘書の計18名が出席しました。

理事長の挨拶、自己紹介の後、副理事長3名が以下の重点要望項目の説明をしました。



#### ■医療費助成の拡充について

1. 精神障害者への医療費助成制度の拡充と格差解消
2. 診断書の無料化

#### ■精神障害者が安心して暮らせる街づくりについて

3. 精神障害にも対応した包括ケアシステムの構築推進
  - アウトリーチ事業の推進
  - 多様な形態での住まいの確保
  - 教育・啓発活動の推進
  - 家族への支援強化
  - 長期入院の精神障害者の地域移行促進
4. 福祉人材の確保
5. 各区の福祉保健センターのMSWの増員

#### ■安心して受けられる医療について

6. 患者の権利擁護の徹底
  - 強制入院、隔離、身体拘束等での人権への配慮
  - 療養病棟の入院患者の生活環境改善
  - 精神医療従事者の職業倫理規範の再考

#### ■参加者からも多くの発言がありました。一部を紹介します。

- 精神障害2級の方は精神科通院以外の医療費は3割負担で、働くことが困難な精神障害者本人と家族にとって医療費は大きな負担となっています。他の障害と同様に助成を拡充して下さい。
- 「精神障害にも対応した包括ケアシステム」を推進するための会議に参加しています。保健・医療・福祉の関係者が集まり協議をすることは、とても良い事だと思っておりますが、いつまでに何をやるのかを示してほしいです。
- 自分から医療や福祉に相談に行くことが困難な特性を持つ精神障害者に、家族は苦労しています。医師・看護師・精神保健福祉士等を含めた訪問チームを作り、緊急の時などに、訪問してください。

●中学校へ「精神病について」の講演に行くことになり、校長より「うつ病、統合失調症という言葉は使わないで」と言われました。理由は、「クラスの中にそれらしい子がいたらいじめに会うかもしれない」と精神疾患はありふれた病気です。教育の場で教えるべきです。

議員さん達は熱心に聞いていましたが、時間が足りないと思いました。医療費助成制度の拡充はもう何年も要望を続けています。一日も早く、三障害平等になることを願っています。

## 日本共産党との懇談会に参加して

6月14日（月）はお天気も予想より良く、市庁舎からの眺めも、最近できたケーブルカーも運行してよく見え、快適な日でした。予定された5階の会議室も外がよく見えるゆったりした部屋で、日本共産党の横浜市議員さん3名が窓際に、私たち浜家連も理事長を筆頭に8名と、事務局の中居さんが内側に、向かい合って並びました。

共産党は、団長の荒木由美子氏は欠席で、白井正子氏（港北区）古谷康彦氏（鶴見）が中心となって話を聞いてくださいました。

まず共産党の3名が自己紹介、引き続き、浜家連も、宮川理事長から、順に自己紹介して始まりました。引き続き、宮川理事長から、共産党に対して日ごろの活動、浜家連への精神保健福祉施策の策定、実施に向けてのご配慮に感謝の言葉及び、今後取り組んでいきたいことの実施に向けて、ご尽力いただきたい旨が述べられました。

その後、令和4年度の、精神保健福祉施策要望書の中から重点要望項目「医療費助成の拡大について」稲垣副理事長から、詳しい説明がなされ、次に「精神障害者が安心して

## すすらん会 工藤智子

暮らせる街づくりについて」（精神障害にも対応した包括ケアシステムの構築）井汲副理事長から、丁寧な説明がありました。

そのほか、地域活動支援センターやグループホームなど福祉関係の事業所などの人材不足への対策のお願い、各区の福祉保健センターのMSWの増員要望（各区に1名ずつ）をしました。

もう1つの重点要望項目として、「安心して受けられる医療について」（患者の権利擁護について）大羽副理事長から説明がなされました。

そのほかにも、細かい要求がいくつか出されましたが、共産党側からも、「包括ケアシステムの構築にあたってどこが問題なのか」などの質問もあり、できる限りの説明もできたので、中身のある懇談ができたと思います。

わたしは共産党との懇談は初めてでしたが、どんな党なのかよく知りませんでした。が、党の議員さんと直接会話ができたことは、よい経験になりました。



## 浜家連 自由民主党・無所属の会 横浜市議団 面談記録 みなみ会 土屋克也

去る、6月18日金曜日午後1時より40分間、自由民主党・無所属の会横浜市議員団との面談が横浜市議会棟3階の受付奥にある部屋にて行われました。

当日の出席者は、当会理事長の宮川さん以下、副理事長4名、常任理事2名と事務局の中居さん、そして筆者：土屋の9名が参加しました。

対する自由民主党・無所属の会 横浜市議員団は、名簿によれば36名オールキャストでした（一部空席もあれば途中退席もありました）。広い部屋に会議机一個に一人しか



着席していないので（当会の着席も同じでした）、部屋そのものが広く、天井も高く、正面のスクリーンは、横浜市選出の各国会議員地元選挙事務所をリモートで繋ぐなど、さすが最大会派、現代風といささか驚きました。

先に実施された公明党市議員団の場合はオールキャストとは言え、リモートで繋ぐことは無く、共産党市議員団の場合は、代表者3名との懇談でした。

お二人の議員から会議の始まる前の控室、そして終了後にもご挨拶をいただきました。お二人とも女性議員という立場故に男性議員よりも、障害者に対する思いも強いだろうと、想像した次第です。

さて、会談の目的である当会からの令和4年度への施策等予算編成に対する要望は、基本的な内容は前年と特に大きな変化は、ありません。重点課題として上げた、障害者間で

現存する支援額格差の問題。障害者を支援する横組織の取り組み。心身共に、安全に向けた医療体制の是正。を三本柱に据えました。

この重点項目の説明も中々良い呼吸で説明出来たなと思います。

中心に説明された副理事長の皆さんに敬意と感謝を。

最後に、気になる点を一つ、お金を出させる事柄には必ずプラス面とマイナス面があることを承知して要望する事。Take だけでは、成り立たない。

二つ目、当会の要望書、専門用語にこだわらず、もう少し簡単明瞭化が望ましいと思いますが。

追伸 南区選出の遊佐議員にご挨拶が出来ました。当会会報等の送付を承知して頂きましたので、単会から送付したいと思います。

## § イベント情報 §

### ◆ 2021年度 第1回 市民メンタルヘルス講座 ◆

#### 「働きながら家族再生」 ～仕事も家族もあきらめない～

日 時：2021年9月25日（土）13：30～16：00

場 所：瀬谷公会堂

講 師：佐々木 常夫 氏

（佐々木常夫マネージメントリサーチ代表）

定 員：250名（先着順） 入場無料

事前申し込み必要（FAX 又はメール）



【編集後記】緊急事態宣言下でのオリンピック。無観客での開催という異例の大会となりましたが、浜家連ニュースがお手元に届く頃には、どんな名勝負が繰り広げられているでしょうか。感動的なシーンを一つでも多く見る事ができればと思います。

9月25日の「はたらきながら家族再生」の講演を皮切りに、市民メンタルヘルス講座が始まります。今年度は5回開催の予定です。コロナ禍の中、困難なことも多くありますが、昨年の経験を踏まえ、知恵を出し合って皆さんに喜んでいただけるような市民メンタルヘルス講座を開催できればと思います。

（事務局 中居）